

博物館なんでも相談会

石立 弥生子

関西大学博物館で平成15年に始めた「なんでも相談会」は、平成25年に第10回を迎えた。子供対象の体験型に切り替えた平成18年を基点に、これまでの10年を振り返りたい。

目的

平成15年に開始した際は、担当教員の指導のもと、地域住民から持ち込まれる史資料や工芸品を拝見し、本館で受け入れている博物館実習生に、資料の取り扱いや鑑定の着眼点、基本的なことでは応対や説明の仕方などを実学させることに重点が置かれた。しかしながら、時価の算出を期待されたり、歴史・美術系以外の予想外の相談が持ち込まれたり、本来意図したものから外れることも多く、所期の目的である資料相談と学芸員を希望する学生スタッフの育成を軸に、平成18年からは、博物館を会場に子どもたちが楽しめる体験型の行事へと転換することになった。



「さわってみよう！博物館」で学生スタッフと一緒に

日程

小中学生の夏休み中に実施するという方針はあったものの、当初は7月中や8月末に実施するなど試行錯誤を重ねた。現在は、大学の授業の妨げにならないことと、行事を遂行する学生スタッフの参加しやすさに配慮して、春学期試験終了直後の8月初旬の実施に固定化しつつある。また、初期には開催曜日を重視して週末に実施したこともあったが、期待したほど参加者増に結び付かなかった。そこで「安・近・単(価格が安い・近い・簡単に参加)」に気を配り、近年は平日開催に心がけて日程を組んでいる。実際、家族揃って参加されるケースも少なくないが、子どもたち同士、また、小学校3年生以下の児童には保護者の付き添いを求めているため、保護者同士が誘いあって、夏休みの平日に

気軽に参加できるイベントとして定着してきたようである。また、平日開催であれば、学内の食堂等も営業しており、終日キャンパスでゆっくりと過ごしていかれる参加者は多い。

実施内容

事前準備や材料が必要なものは事前申込制で参加者を募集する。今年は「木っ端細工」「まが玉づくり」や株式会社紀伊國屋書店による「POP 広告」など7種類334名分の受付をした。概ね募集開始から3日ほどで満席となり、当日の出席率は94%であった。

一方、時間・人数に関わらず楽しんでもらえる自由参加のプログラムも複数設けている。平成21年度から学内外諸団体等の協力のもと、プログラムを徐々に増やしていることもあり、終日博物館で過ごすことができるほど充実してきた。平成25年度は、学外からの5団体を含む8団体・機関等の協力を得て7プログラムを実施した。兵庫県立氷上西高校の生徒さんとともにやってきてくれる丹波市の着ぐるみ「ちーたん」はすっかり本行事のアイドルとなっている。

プログラムに4つ以上参加すると、先着で大学グッズをプレゼントするなど、まんべんなく参加してもらうための工夫もしている。

体験型プログラム

自然史系の教員やスタッフがアブラゼミやバッタの習性を解説しながら、一緒に捕虫網を持って樹木の多いキャンパス内を散策する「キャンパス昆虫探検隊」。折線のついた紙を用意して、自分で折った紙飛行機を広場で力一杯飛ばしてもらおう「紙ひこうき大会」。本学鉄道研究会による「鉄道模型コーナー」は、運転操作に長い順番待ちの列ができるほどである。同時に鉄道写真の展示も行い、学生の成果披露に役買っている。

大阪府立弥生文化博物館の出前イベント「狩人きぶん」は、学芸員の着想に学ぶことが多く、行事を運営していく上で大変参考となったが、子どもたちの人気も高いものであった。

学生スタッフとの交流も本行事が地域に定着した要因のひとつと考えられる。本学ボランティアセンターの学生スタッフによる「防災」をテーマとしたコーナー(平成24年度実施)は、普段接することの少ない大学生のお兄さんお姉さんと遊びながら学べ、言葉のキャッチボール



キャンパス昆虫探検隊

が活発にかわされている。考古学研究室の研究活動の一環として生まれた高松塚古墳の四神着ぐるみは、子どもたちに親しみやすい歴史教育を提供している。

また、平成25年度は別日を設けて一日書道教室を実施し、その成果をなんでも相談会当日に展示した。「見るだけ」「聞くだけ」でなく、「体験」することを大切にして、行事を企画している。

参加者

平成18年度、体験型に切り替えた当初の参加者数は363人（2日間）であったが、それでもその多さに驚いたものであった。平成20年に吹田市と吹田市教育委員会の後援をうけて、吹田市全域の小学校へチラシを配布するようになった。

てからも、参加者数は増加の一途をたどる。平成25年度は1日で900人近くの参加者があった。行事内容に改善を加えればさらなる増加も期待されるが、施設のキャパシティや現状の受け入れ態勢を考えると、慎重にならざるをえない。博物館を軸とした行事に留めて博物館教育に特化するか、大学全体に拡大してキッズオープンキャンパスとするか、多方面からの検討が必要な時期にきている。

まとめ

手作りの行事であり、突発的な小さなトラブルはあるが、熱中症対策のために麦茶を用意するなど細かな配慮をして、これまで事故なく安全に実施してきた。

博物館に直接関係のないプログラムも多いが、「博物館に行けばなにか楽しいことがある」と思ってもらえるように、スタッフ一同、春先から準備をはじめ、いかに博物館に興味をもってもらえるかに心をくんでいる。さらには、この行事を通じて博物館だけでなく大学全体の雰囲気も感じ取ってもらいたいと欲張りなことを考えている。紙ひこうきを思いっきり飛ばしている子どもが、「あの博物館のある大学へ進学しよう」、そう思ってもらえるための行事でもありたい。今年第10回を終えた節目であるが、これからの課題も見えてきた。

プログラムと参加者数の変遷

年度	2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)	2010 (平成22)	2012 (平成24)	2013※ (平成25)			
実施日	8月4日・5日	8月3日・4日	8月1日・2日	8月4日・5日	8月4日・5日	8月6日・7日	7月23日・28日			
参加者数 (2日間)	363人	439人	511人	829人	911人	1148人	953人			
プログラム内容	博物館担当	事前申込	自由参加	キャンパス昆虫探検隊						
				さわってみよう・博物館						
				紙ひこうき大会						
				史・資料相談会						
				銅鐸スケッチ						
				まが玉づくり	石ころアート		縄文ポシエツ		アコーディオン絵本	まが玉づくり
					甲冑ファッションショー		紙芝居			一日書道教室
				葉っぱのバッタ						
								木っ端細工（木工アニマル）		
								木登りてんとうむし	くるくるミツバチ	
								鉄道模型コーナー（関大鉄道研究会）		
								ボランティア体験（関大ボランティアセンター）		
								出前イベント（弥生文化博物館）		
								資料提供（福井県）		
								丹波電がやってきた（丹波市）		
外部団体担当	事前申込					ちーたんと作ろう（丹波市）				
						POP 広告（紀伊國屋書店）				

※2011年（平成23）は耐震工事中のため実施しなかった。

※博物館リニューアル工事のため、7月23日は書道教室、従来型は7月28日（参加者871人）の1日のみと変則で実施。